

1年1組 学級活動学習指導案

1. 議題 「11・12月のお誕生日集会をしよう」
学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
2. 児童の実態及び議題設定の理由

3. 本時のねらい

お誕生日月の児童の思いをもとに遊びを決める活動を通して、相手の立場に立って考えることの大切さに気づき、第3回お誕生日集会の遊びを決めることができる。

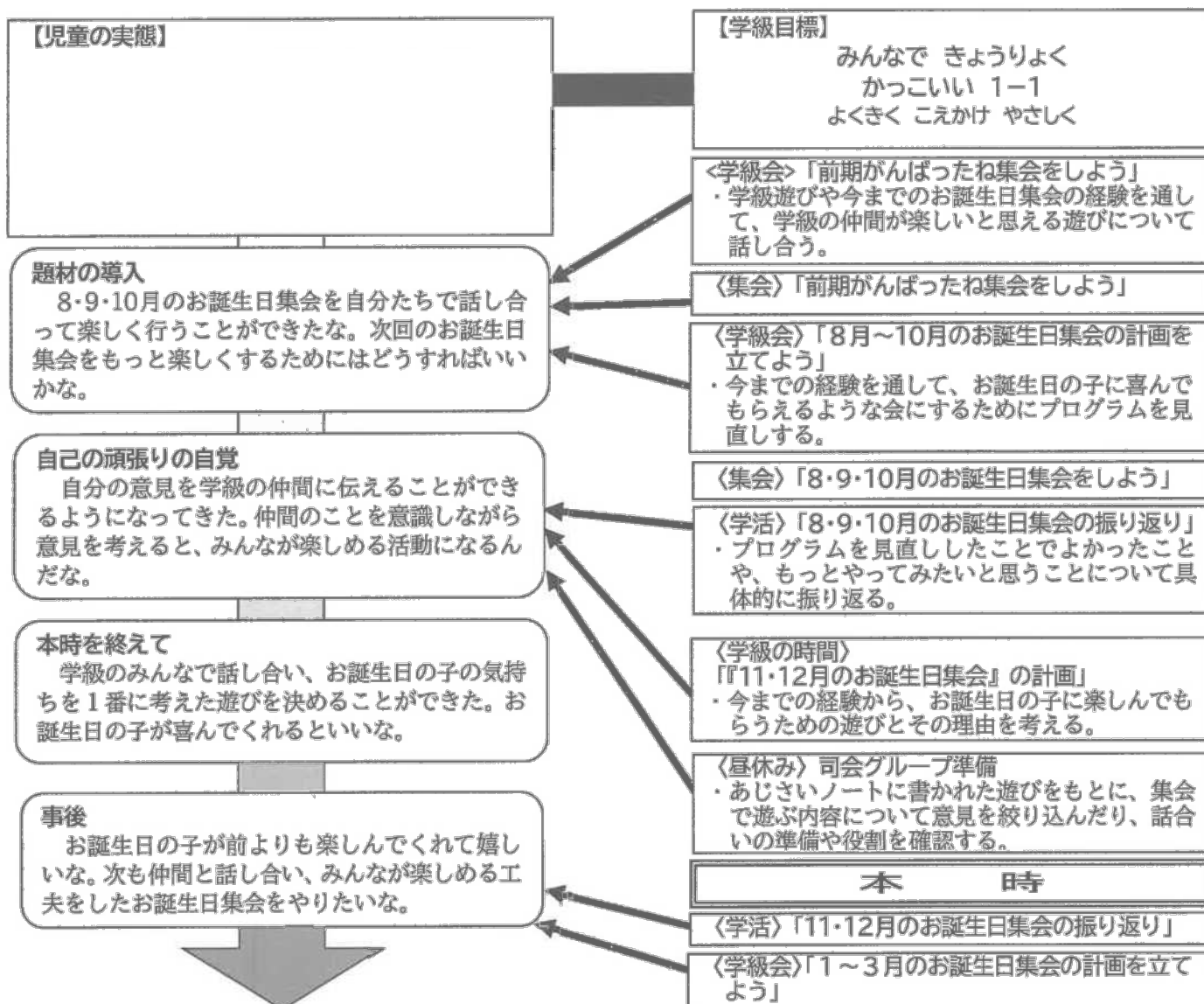
4. 評価規準

お誕生日月の児童の思いをもとに遊びを考えて、自分の意見を話したり、仲間の意見を聞いたりして合意形成を図っている。(思考・判断・表現)

5. 本時の展開

	ねらい	主な学習活動	指導・援助 〈研究内容Ⅱ〉
つかむ	お誕生日月の児童がもっと喜ぶ遊びについて話し合っていることを理解できる。	1. 本時の話し合うことを確認する。 11・12月のおたんじょうびしゅうかいのあそびをきめよう。 ＜提案理由＞前のお誕生日集会は、みんなで話し合って決めた遊びや飾りつけでお祝いして、楽しかったです。だから今回のお誕生日集会は、主役のお誕生日月の子にもっと楽しんでもらえるような遊びを1つみんなで話し合って決めたいです。 ＜話し合いのめあて＞ ・自分の考えたことを友だちに話そう。 ・お誕生日月の子に楽しんでもらうために、どんな遊びにするとよいかを考えて決めよう。	・あじさいノートの結果を確認し、本時の話し合い活動の意欲を高める。【Ⅱ-①】 ・日にち・時間・場所の条件やお誕生日月の児童の写真を提示する。【Ⅱ-①】
出し合う ／ 比べ合う ／ まとめる	提案理由を意識して話し合うことができる。 お誕生日月の児童の思いに寄り添って遊びを決めることができる。	2. 議題について話し合う。 ○3つの遊びから、遊びたい理由を明確にして意見を交流する。 ＜船長さんの命令＞ ・お誕生日の子が船長さん役をやれるようにすると嬉しいと思う。 ＜なんでもバスケット＞ ・お誕生日の子が喜ぶお題にすることができる。 ＜もうじゅうがりにいこうよ＞ ・お誕生日の子を入れてグループを作ると喜びそう。 3. お誕生日月の子の思いをインタビューして、比べて考える。 ・お誕生日月のAさんは、なんでもバスケットは、ルールが難しくて苦手だと言っていたので、船長さんの命令かもうじゅうがりにいこうがいいと思います。 ・Bさんは、なんでもバスケットが好きだそうです。Aさんに話を聞くと、ルールを教えてくれるなら、やりたいと言っていました。だからなんでもバスケットがいいと思います。 4. 比べ合った意見をもとに、遊びを決める。 ・今回は、お誕生日月の子みんなが楽しむことができる「○○○」にしたいと思います。	・全体交流の前にペア交流を設け、全員が自分の意見を1回は話せるようにする。【Ⅱ-②】 ・経験を生かして話したり、理由を付けて話したりしている児童を価値付ける。【Ⅱ-②】 ・お誕生日月の児童に対して、本当に楽しめているか、問いかけをしたり、試しの活動を行ったりすることで、相手の思いを意識できるようにする。【Ⅱ-②】 ・お誕生日月の児童の立場に立って合意形成ができるように、方法の助言をする。【Ⅱ-②】
決める	お誕生日会への意欲を高める。	5. 教師の話を聞く。 お誕生日月の子がもっと喜ぶような遊びを考えて、理由をつけて話したり、友達の意見やお誕生日月の子の思いをよく聞いて考えたりして話し合いができ、「みんなで協力して」決めることができましたね。司会者グループも休み時間を使って練習していたので、スムーズに話し合いができました。ありがとう。お誕生日月の子たちの笑顔がたくさん見られる楽しいお誕生日集会になりそうですね。	・提案理由を意識して話している児童や仲間の意見をよく聞いて自分のやりたい遊びを譲った児童と司会グループへの価値付けをし、集会への意欲を高める。【Ⅱ-②】

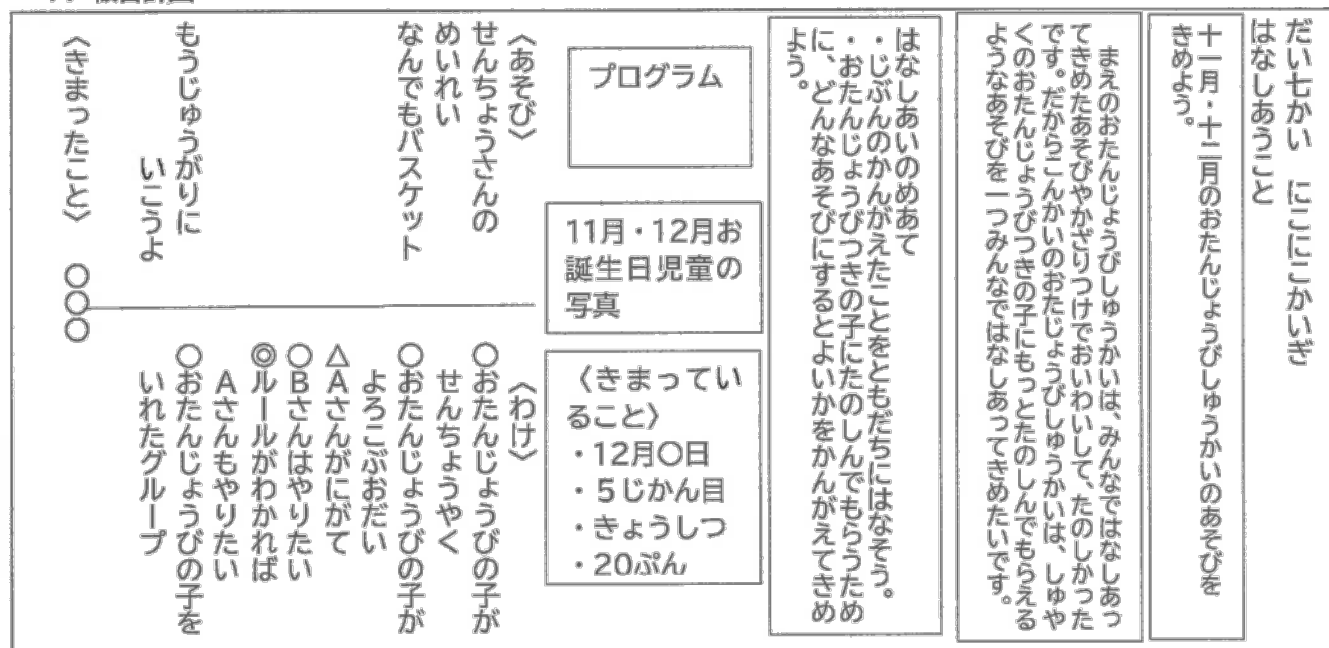
6. めざす姿に迫るための事前・本時・事後の指導構想〈研究内容Ⅰ〉



【めざす姿】

- 相手意識をもって自分の意見を話したり、仲間の意見をよく聞いたりする姿。
- 相手の思いを押し量りながら関わろうとする姿。

7. 板書計画



3年1組 学級活動学習指導案

1. 題材 「自分も仲間も笑顔になろう」
学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成
2. 児童の実態及び題材設定の理由

3. 本時のねらい

自他の言葉のかけ方について振り返る活動を通して、仲間ともっと笑顔になるためには言い方を考えることが大切であることに気付く、自分がどんな言葉をかけて仲間に接したらよいかを考え、意思決定することができる。

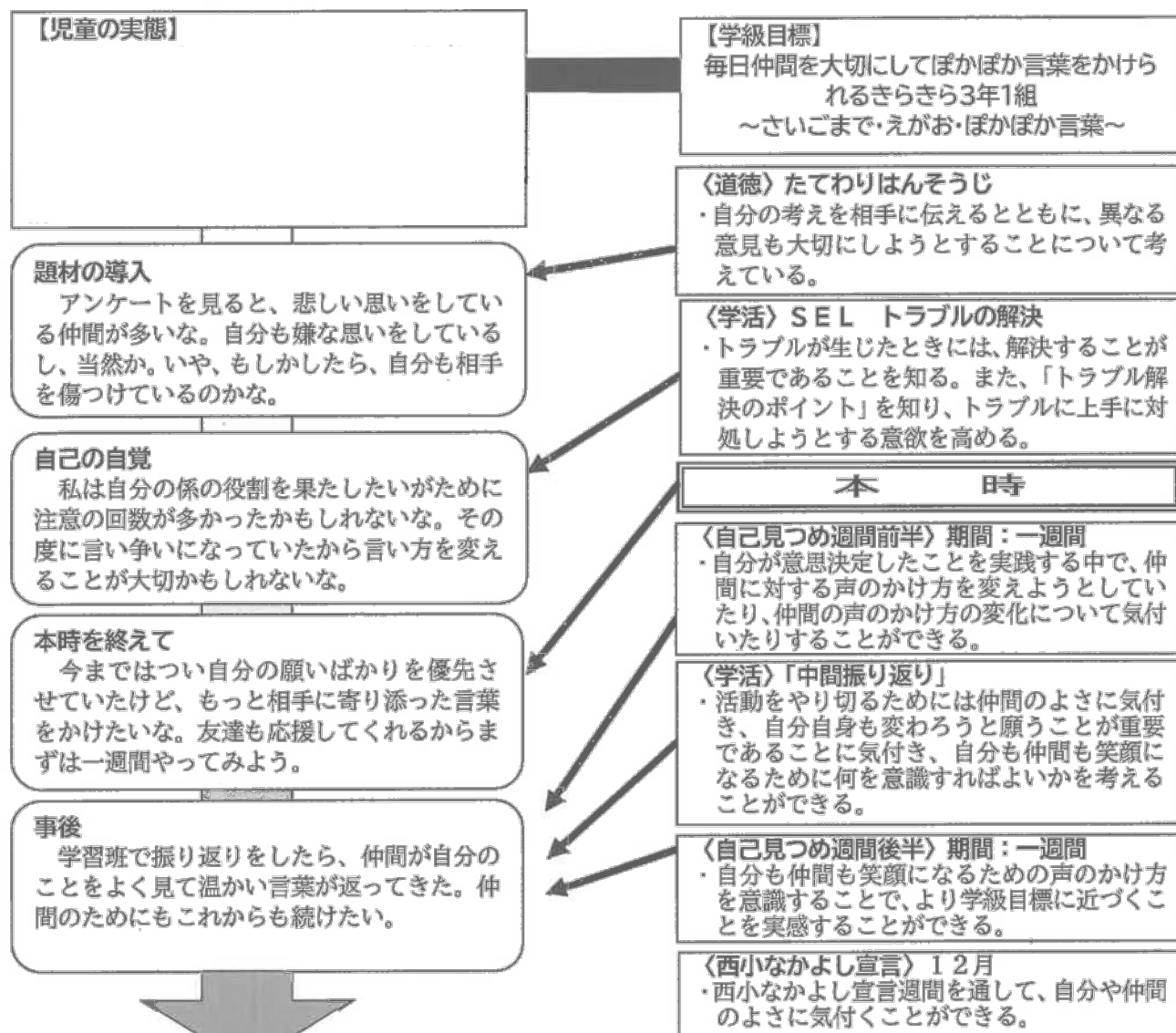
4. 評価規準

自分も仲間も笑顔になるためにアンケートや仲間の思いをもとに言葉づかいについて考え、自分に合った言葉のかけ方を意思決定している。(思考・判断・表現)

5. 本時の展開

	ねらい	主な学習活動	指導・援助 (研究内容Ⅱ)
つかむ	自他の言葉のかけ方について振り返り、自分の言葉のかけ方について課題意識をもつ。	1. 〈第1資料：学級アンケート〉結果から仲間との接し方について振り返る。 ○「あ・じ・さ・い」のいつもなかよしを意識して行動している。 ○「私は仲間に対して優しく声をかけるようにしている。」 ○「仲間からきつい言い方をされて困ったことがある。」 相手も自分も笑顔になる言い方はどんなものだろう。	・事前アンケートから学級の実態をつかむ。 ・事前アンケートの結果から学級目標に立ち返り、どんな学級を目指したかったかを確認して課題化する。【Ⅱ-①】
つなげる ／ 見つける	言い方次第で自分が笑顔になれないことに気付く。 言葉のかけ方次第で相手に笑顔にできることに気付く、何ができるか考え、実現に向けた目標を決定することができる。	2. 今までの生活を振り返ってどんな言い方をされたときに笑顔になれなかったかを考える。 ○あなたは、どんな言い方をされたときに笑顔になれませんでしたか。 ・移動で並ぶときに準備に時間がかかっていてすぐに移動ができなかったら「早くしてよ。」と言われた。 ・授業中に間違えたら「こんなこともできないの。」と言われた。 3. 〈第2資料：自分が仲間の言い方次第で笑顔になれた経験のある児童の作文〉から、どんなことを意識して仲間と話すことができるか話をし合う。 ・言い方次第で自分も仲間も嫌な思いにならないことができるんだ。 ・私はつい「してよ。」と言うことが多いが「しようよ。」と声をかけると自分も仲間も笑顔になれるかもしれない。 ・相手だけに聞こえる声で話すとより自分の気持ちが伝わるかもしれない。 ・今までの自分の言い方も変えれば、自分も仲間も笑顔になるね。 4. 「学級の仲間への言葉のかけ方」について話し合う。(班交流) ・ぼくは次の授業の準備を忘れていた時に、隣の席の子が小さな声で「ノート出そうね」と教えてくれた。そっと教えてくれて嬉しかったから、自分も声の大きさを変えたい。 ・私は学級全体に大きな声で注意をしてしまうことがあるから、まずは班員に優しく声をかけるようにしたい。そして声の大きさを意識したい。 ・移動教室で廊下に並ぶときに、近くの子がまだ準備ができていなかったら「一緒に行こう」と声をかけ、時間を守れるようにしたい。	・児童の発言から原因を分類整理し、黒板に位置付ける。 ・第2資料から気付いたことを交流することで、同じ内容でも言い方次第で相手の捉え方が変わることに気付くことができるように助言する。【Ⅱ-②】 ・児童が自分事として考えられるように「自分はどうかだったの?」と問い返す。【Ⅱ-②】 ・班交流でお互いに見つめ直せるように話合いの視点を明確にする。【Ⅱ-①】 ・自分の実態に合わない目標や実現性の低い目標を決めている児童には「見つける」の場面に立ち戻って自分にできそうなことを選ぶように助言する。【Ⅱ-②】
決める	自分の決定した活動を1週間やり続けようとする意欲をもつ。	5. 「自分も仲間も笑顔にするために自分ができること」について、内容と方法について宣言する。 6. 教師の話聞く。 どんな言い方をすれば、自分も仲間も笑顔になれるかを一生懸命考えることができましたね。言い方を意識するだけで仲間が笑顔になり、自分も笑顔になれるなんて本当にうれしいですね。「笑顔」は学級目標のキーワードになっています。自分が決めたことをやっていき、自分も仲間も笑顔がたくさん毎日にしていきましょう。	・本時の学習をまとめ、実践していく意欲を高める。

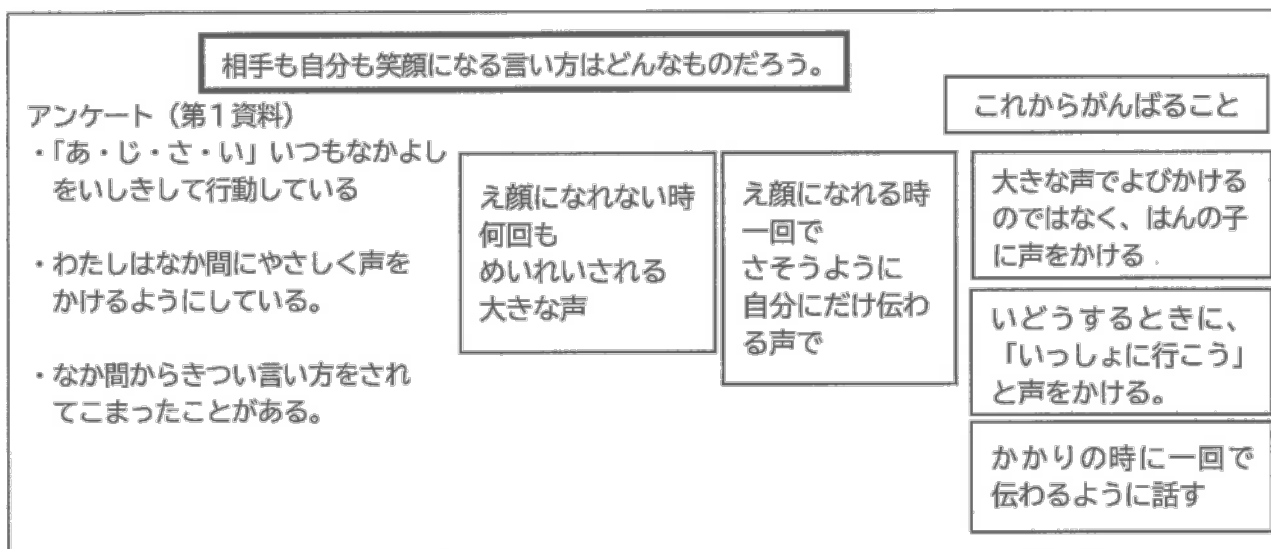
6. めざす姿に迫るための事前・本時・事後の指導構想〈研究内容Ⅰ〉



【めざす姿】

- 今までの自分の姿を振り返り、どんな言い方をすれば、自分も仲間も笑顔になれるかを考え、実践しようとする姿。
- 学級目標の「えがお」を達成するために、係活動や当番活動等の場面での言い方を考えようとする姿。

7. 板書計画



4年1組 学級活動学習指導案

1. 題材名 「助け合い～仲間のために自分ができること～」

学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

2. 児童の実態及び題材設定の理由

3. 本時のねらい

みんなが自己チェックを頑張っているのに仲間のためにになっているか不安を感じている理由を考えることを通して、充実感をもって仲間のための行動をしていくためには仲間からの認めや励ましの言葉が必要だと気づき、これから自分も仲間も「仲間のための行動」を続けるために自分が意識していくことを決めることができる。

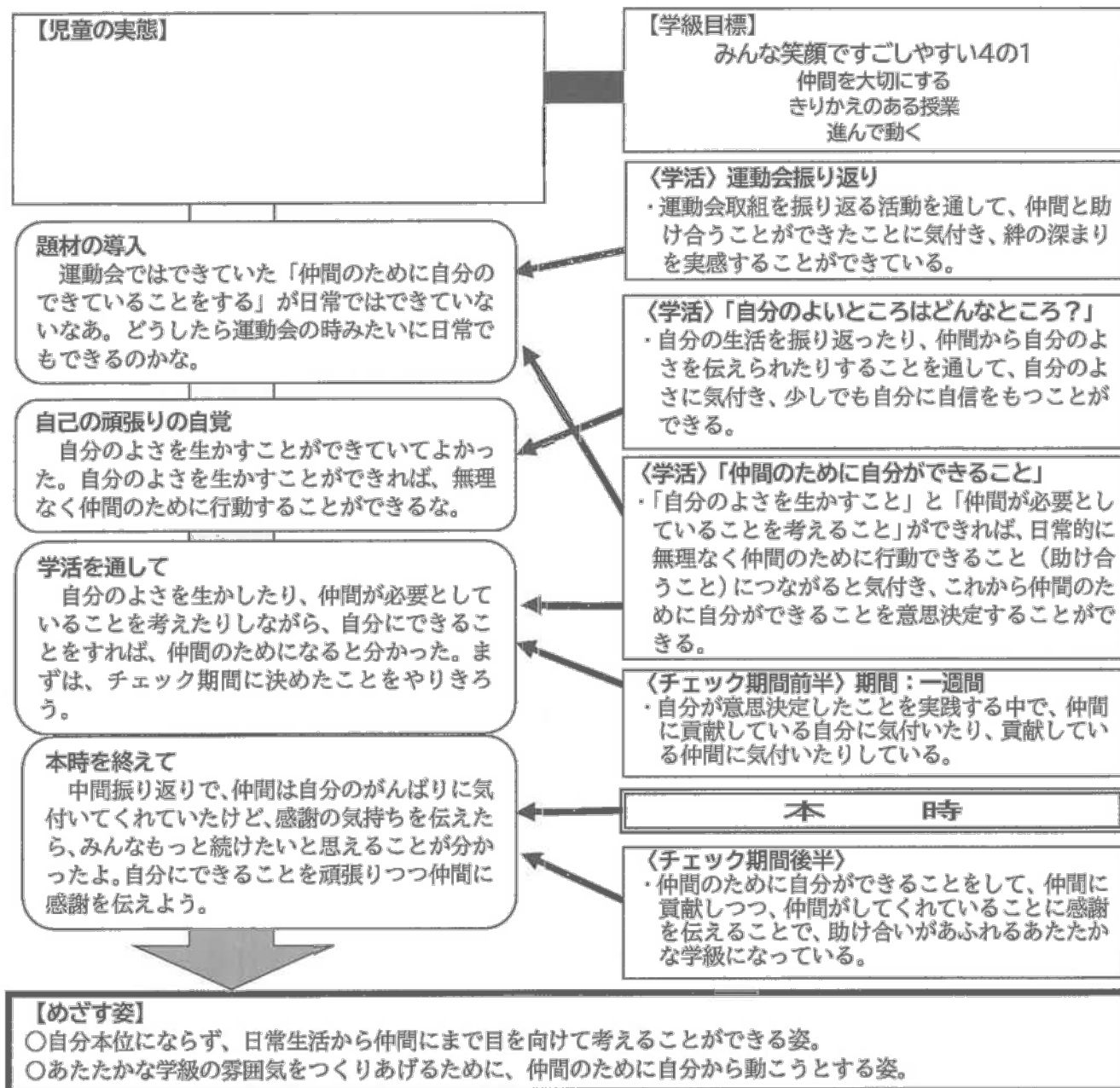
4. 評価規準

仲間のための行動をこれからも続けていくために大切なことを学級アンケートや仲間の思いから考え、自分ができることを具体的に決めている。(思考・判断・表現)

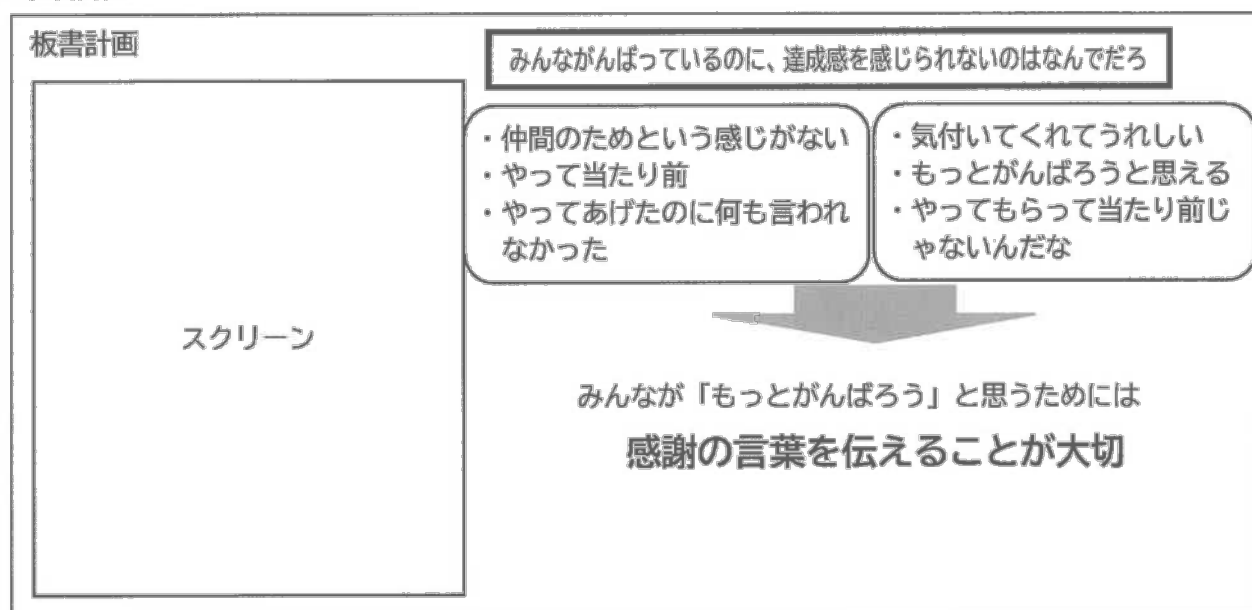
5. 本時の展開

	ねらい	主な学習活動	指導・援助 〈研究内容Ⅱ〉
つかむ	取り組みを振り返り、実感を得るにはたどうしたかをもが疑問をもち、つくる。	1. 一週間自己チェックをした感想を交流する。 ・一週間がんばったけど、意識し続けるのは大変だった。 2. 〈第1資料：学級アンケート〉を見て気付いたことを話し合う。 ①自分が決めた目標を意識して生活することができましたか？ ②仲間のためにになっているという達成感を感じましたか？ ・仲間のためと思って自分はやっていただけでも実感はないかも。 ・みんなこの期間頑張っていたのに、達成感が少ないのは为什么呢？ みんなががんばっているのに、達成感を感じられないのは为什么呢？	・自己チェックの振り返りと第1資料から、みんな頑張っていたのにみんな不安に思っている矛盾点に気づき、課題化できるようにする。【Ⅱ-①】
さぐる／見つける	仲間からの認めや励ましの言葉があるからこそ行動を継続することができると気づくことができる。	3. 達成感が少ない理由について考える。 ・仲間のためにになっているという実感がないからかな。 ・仲間のためと思ってやったけど、何も言ってもらえなかったから。 ・仲間がやっているのは見たけど決めたことだからやって当たり前だと思っていたかもしれない。 4. 〈第2資料：仲間の行動を認めている児童の作文〉から、これからも仲間のための行動をしていくために必要なことを考える。 ・自分がやっている姿に気付いてくれてうれしい。見てくれたことが分かって、これからも頑張ろうと思えたよ。 「やってもらって当たり前。」じゃないんだな。 「ありがとう。」「できているね。」を言葉にして伝えていくことが必要なんだね。思いを伝えることも「仲間のための行動」だね。 5. 班員の自己チェック期間のよい姿を交流する(班交流)。 ・やっぱり仲間が自分の姿を見てくれていてうれしいな。 「ありがとう。」と言ってもらえると、やってよかったなと思う。 ・今までは仲間の姿を見ても何も言えなかったけど、これからは見たら言葉にして感謝を伝えたいな。	・第2資料を通して、やっていることを仲間から認めてもらえることのうれしさに気づき、頑張りを継続するためには感謝の言葉や認め、励ましの言葉が必要だと考えることができるようにする。 ・班交流を設定することで、認められる充実感を全員が感じられるようにする。 ・自己チェック振り返りに仲間のよさを付箋に書き、交流時に渡せるようにする。【Ⅱ-①】
決める	目標を見直し、仲間と共にこれからがんばっていくという意欲を高める。	6. 前回決めた「仲間のために自分ができること」を見直す。 ・前決めた目標は班員にも「ありがとう。」と言ってもらえたからそのままにしよう。でも、誰かにやってもらった時はその子に何も言えていなかったから、がんばっている仲間の自分に思いを伝えるために「ありがとう。」という意識をしよう。 7. 教師の話を聞く。 みんなが「仲間のための行動」を続けていくためには、やってもらう側も仲間のために認めや励ましの思いを言葉にして伝えていくことが必要だと気づきましたね。これは、4月に話した「感謝の気持ちを伝えよう」と同じです。みんなが過ごしやすいクラスをめざして、お互いに「仲間のための行動」をしていきましょう。	・前回の自己チェックの振り返りや仲間からの認めの言葉をもとに、目標を決定する。 ・4月から大切にしていることと結び付けて話す。

6. めざす姿に迫るための事前・本時・事後の指導構想〈研究内容Ⅰ〉



7. 板書計画



4年2組 学級活動学習指導案

1. 題材 「助け合い～仲間のために自分ができること～」

学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

2. 児童の実態及び題材設定の理由

3. 本時のねらい

学級アンケートや仲間の作文をもとに、仲間のために自分ができることは何かを考えることを通して、「自分のよさを生かすこと」と「仲間が必要としていることを考えること」ができれば、日常的に無理なく仲間のために行動できること(助け合うこと)につながると気づき、これから仲間のために自分ができることを意思決定することができる。

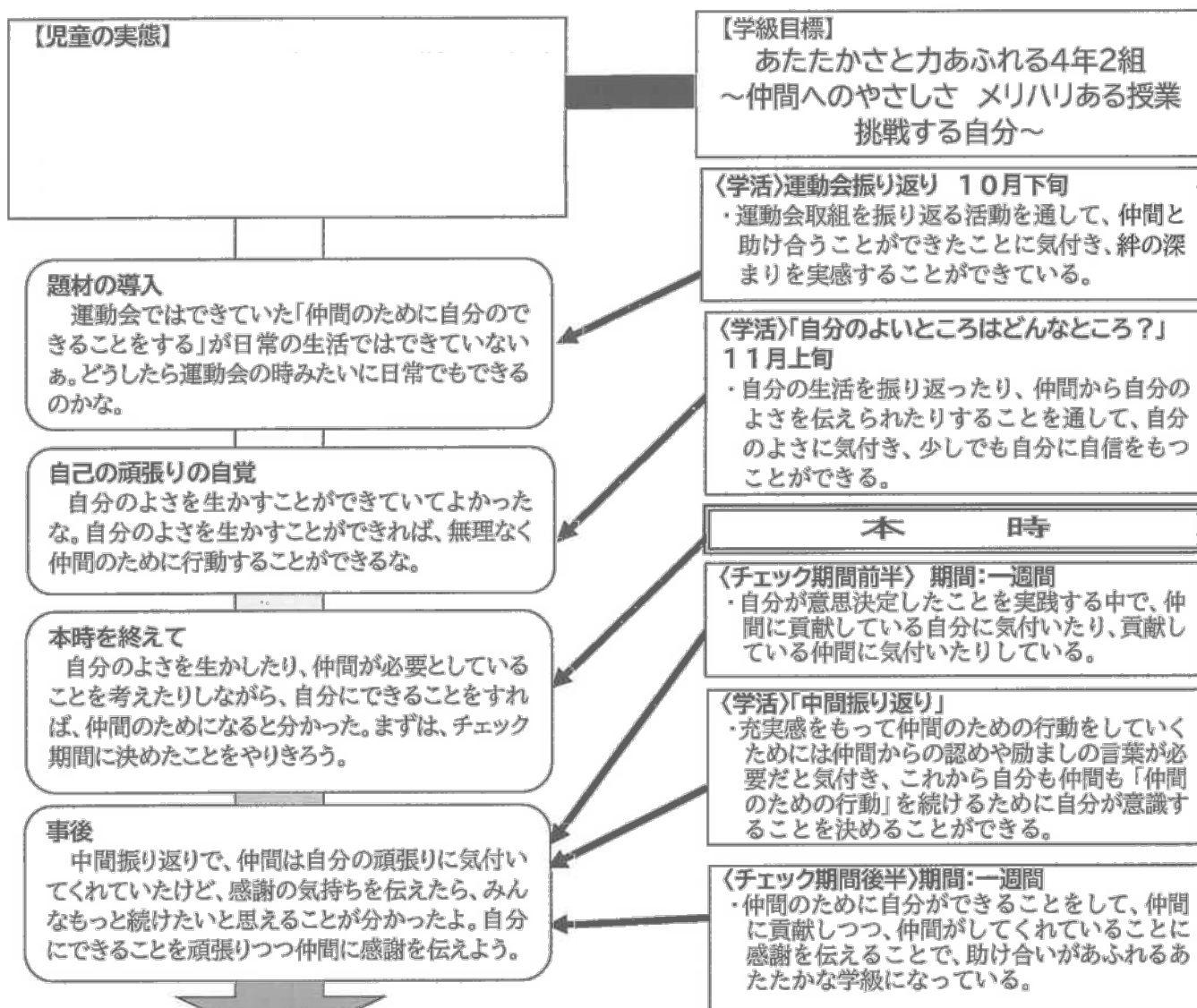
4. 評価規準

仲間のために自分ができることをアンケートや仲間の姿や思いをもとに考え、自分に合った方法を意思決定している。(思考・判断・表現)

5. 本時の展開

	ねらい	主な学習活動	指導・援助 〈研究内容Ⅱ〉
つかむ	運動会ではできていたのに、日常生活ではあまりできていないことに気付くことができる。	1. 〈第1資料：学級アンケート〉を見て気付いたことを話し合う。 ①「仲間のために自分ができること」をしたら、あたたかさあふれる学級になると思いますか。 ②運動会で「仲間のために自分ができること」ができましたか。 ③今「仲間のために自分ができること」を進んでいますか。 ・運動会ではみんなできていたけど、運動会が終わったらできていないみたい。 ・日常の生活だとみんなできていないな。 ・「仲間のために自分ができること」をみんながしたら、あたたかさあふれる学級になれる。 日常生活の中で仲間のために自分ができることって何だろう。	・事前の学級アンケートの結果から学級の実態をつかむ。【Ⅱ-①】 ・運動会ではできていたのに、今はできていないという認識のズレから、日常で助け合うことの難しさに気づき、課題化できるようにする。
つなぐ ／ 見つける	仲間のために取り組むことの難しさと取り組もうとしていなかった自分に気付くとともに、よさを生かすことで無理なく仲間のためにできることに気付くことができる。	2. 日常生活で助け合うことがなぜ難しいのか考え、原因分析する。 ①係活動では、「仲間のために自分ができること」を進んでいますか。 ②係活動以外の授業や休み時間の日常生活で「仲間のために自分ができること」を進んでいますか。 ・係活動のように決められていたらできるけど、決められていないとできていないな。自分で一からできることを考えるって難しいな。 3. 〈第2資料：仲間の作文(自分のよさを生かしている児童と仲間が必要としていることを考えている児童)〉から自分ができることを考えるときに大切なことを話し合う。 ・自分のよさを生かすと仲間のためになりそうだ。 ・自分のよさって何だろう。あじさいノートを振り返ろう。 ・仲間が今必要だと思うことを想像することが大切だ。 4. 「仲間のために自分ができること」について話し合う。 ・私は、片付けが早いから、朝にそうじをして、みんなが気持ちよく生活できるようにしたい。 ・私は、アイデアがたくさん出るから、協働学習の時に誰よりも意見を言って、みんなのためになりたい。	・決められていないことに取り組むことの難しさや取り組もうとしていなかった自分に気づき、全員が考える土台に立てるようにする。 ・第2資料から気付いたことを交流することで、自分のよさを生かすことで無理なく取り組めると気付くことができるようにする 【Ⅱ-①】 ・前時「自分のよいところ」のあじさいノートを活用している児童を価値付ける。 【Ⅱ-②】
決める	自分の決定した活動を1週間やり続けようとする意欲をもつ。	5. 「仲間のために自分ができること」について、内容や方法を決める。 ・私は、みんなと話すことが好きだから、一人で困っている子に話しかけて、みんなが楽しく学校生活ができるようにしたいな。そのために20分休みや昼休みは、周りの人の様子を見るようにしよう。 6. 教師の話聞く。 今日考えた「仲間のために自分ができること」をみんながやれば、助け合いの姿が増えてあたたかさあふれる学級に近づきますね。まずは、1週間自己チェックをしてみて、一週間後に一度振り返りをします。その時、やってみて気付いたことをまた交流しましょう。	・自分に合わない目標や実現性の低い目標を決めている児童には、「見つける」の段階に立ち戻って自分にできそうなことを選ぶように助言する。

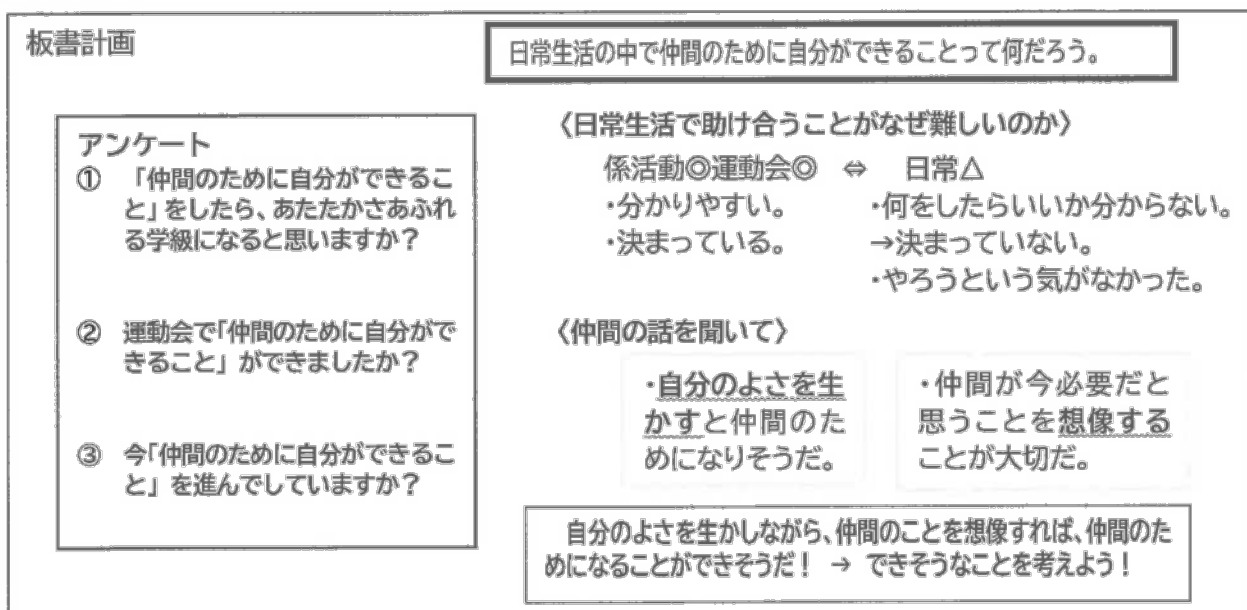
6. めざす姿に迫るための事前・本時・事後の指導構想〈研究内容Ⅰ〉



【めざす姿】

- 自分本位にならず、日常生活から仲間にも目を向けて考えることができる姿。
- あたたかな学級の雰囲気をつくりあげるために、仲間のために自分から動こうとする姿。

7. 板書計画



5年2組 学級活動学習指導案

1. 題材 「なかよしアワーを引き継ごう」

学級活動(3)イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

2. 児童の実態及び題材設定の理由

3. 本時のねらい

6年生の資料をもとに、なかよしアワーの活動を引き継ぐために大切なことは何かを考えることを通して、「どのようななかよしアワーにしたいかという願いをもつこと」と「願いの実現に向けた具体的な行動について考えること」が大切であることに気づき、なかよしアワーについての個人目標を意思決定することができる。

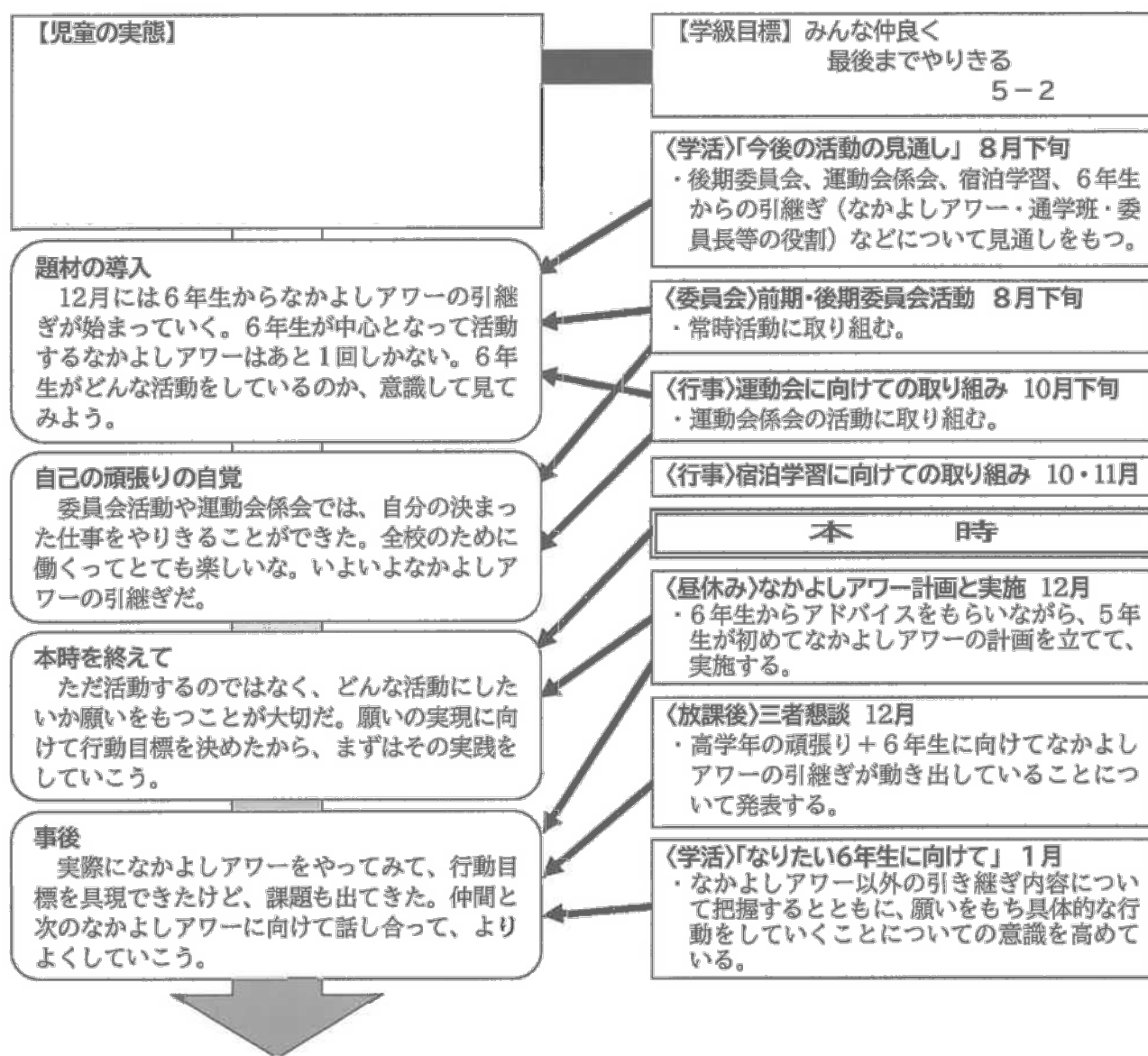
4. 評価規準

なかよしアワーに対する明確な願いとその実現に向けた行動目標をもつことができる。(思考・判断・表現)

5. 本時の展開

	ねらい	主な学習活動	指導・援助 〈研究内容Ⅱ〉
つかむ	自分の取り組みを振り返ることによって自分になりたいたいという意欲をもつ。	1. 〈第1資料：あじさいファイル〉を通して、委員会活動や運動会係会で頑張ってきたことについて振り返る。 ○自分の取り組みについて振り返ろう。 ・図書委員会では、当番の日を忘れることなく活動することができた。 ・運動会では、器具の準備を時間通りに行うことができた。 ○今後のカレンダーを見てこれからの目標について考えよう。 6年生からなかよしアワーを引き継ぐために大切なことは何か考えよう。	・あじさいファイルを見返して、委員会や係会で頑張ってきたことを振り返り、自己肯定感を高める。【Ⅱ－①】 ・自分たちの頑張りを認めた上で、本時のめあてを設定する。
さぐる ／ 見つける	振り返りや6年生の動画から、なかよしアワーを運営する上で、願いを明確にすることが大切であると気付く。 なかよしアワー班での交流を通して、願いの実現に向けた行動目標を決定する。	2. なかよしアワーのときの、6年生の行動について振り返る。 ・晴天や雨天の日のことを考えて、何をして遊ぶかを計画している。 ・なかよしアワー当日は、声をかけて並ばせ、司会をしている。 3. 〈第2資料：6年生の動画〉から、6年生がどんな願いをもって、なかよしアワーを運営しているかについて考える。 ・みんなに楽しく遊んでほしいから、役割分担や事前準備をしっかりし、少しでも遊ぶ時間を取ることができるようにしてくれている。 ・誰もがボールを使って遊んでほしいから、なかなかボールを触ることができない子に進んでボールを渡してあげていた。 ・6年生は、自分たちが遊ぶことではなく、みんなが楽しんでほしいという願いで運営している。 4. 自分の考えをワークシートにまとめる。 ○どんな願いでなかよしアワーを運営していきたいか、その願いの実現のためにどんな行動をしていきたいかをワークシートに記入しよう。 ・全員が楽しく参加できるなかよしアワーをしたい。そのために、全員がすぐに理解できるように遊び方の説明を分かりやすくしたい。 ・学年同士で固まらず、いろいろな学年が交流できるなかよしアワーにしたい。そのために、他の学年と自然に関わることができるような遊びを考えて提案したい。 5. なかよしアワー班で交流する。 ○活動4で記入した願いと行動目標について発表しよう。 ○仲間の発表に対して、意見を交流しよう。 ※参考になりそうな意見は、自分のワークシートに書き込む。	・事前になかよしアワーを運営している6年生の姿や行動をよく見ておくように声掛けをしておく。 ・6年生の動画から、なかよしアワーの運営にいろいろな願いが込められていることに着目させるとともに、自分たちはどのような願いで運営したいかを問いかける。【Ⅱ－①】 ・なかよしアワー班での交流を位置付け、交流を通して最終的な個人目標をプリントに記入できるようにする。【Ⅱ－②】 ・今後のなかよしアワーへの取り組みについて意欲的な発言をしている児童を価値付ける。
決める	自分の考えを宣言し、これから頑張っていこうという意識を高める。	6. 意見を参考にして、最終的な個人目標をワークシートに記入した後、なかよしアワー班の仲間に宣言する。 7. 教師の話を聞く。 6年生はなかよしアワーを行うときに、下学年のみんなに楽しんでもらいたいなど願いを大切に、その願いの実現に向けて具体的に活動していたことが明らかになりましたね。これからみんなは、全校をまとめていく立場が変わっていきます。6年生からの引き継ぎの第1弾として来週から実際に動き出しますので、今日考えた願いや行動目標を大切にしながら、なかよしアワーの計画をしていきましょう。	・本時の学習をまとめ、実践していく意欲を高める。 ・実践→振り返り→再度実践の繰り返し、が、「最後までやりきる」という学級目標につながることに触れる。

6. めざす姿に迫るための事前・本時・事後の指導構想〈研究内容Ⅰ〉



【めざす姿】

○6年生からの様々な引継ぎ事項について、活動の形だけを引き継ぐのではなく、活動に対する願いを大切に、願いの実現に向けて具体的な行動について考え、実践していこうとする姿。

7. 板書計画

